様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：２４３０３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５９３３９２

研究課題名（和文）住民参画による持続的な活動評価の質を担保するアセスメント・アシュアランスの構築

研究課題名（英文）Building of quality assessment to assure sustainable activities by means of residents' participation

研究代表者
星野　明子（HOSHINO, AKIKO）

京都府立医科大学・医学部・教授

研究者番号：７０２８２２０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,600,000円、（間接経費）　1,080,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、住民参画による活動を地縁型グループのA住民福祉協議会、B自治会連合会に、活動と運営や評価の実態および活動評価についての意見をヒアリングし、住民参画による活動の質を保証する方法について検討した。活動の評価は会計報告などが主であり、数値的評価はなかった。持続可能な住民活動は、日本全国の町内会や自治会ほか住民活動の目指すところであり、住民自ら活動を評価することが活動の継続につながると考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, we considered evaluation method for residents' groups. Assessment was only accounting report, not a numerical evaluation. Many groups need to continue their activities. Group leaders should be to evaluate their activities for sustainable them.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域看護学

キーワード：住民参画　兼行増進　アセスメント・アシュアランス　ヘルスプロモーション　活動の評価

１．研究開始当初の背景

超高齢社会を迎えたわが国では、医療、保健、生活環境などの違いを背景とした健康格差の問題が指摘される。国民の高齢化に伴う健康問題の解決と予防及び健康増進対策として、21 世紀の第３次国民健康づくり運動（健康日本 21）や健康増進法の制定（2002）が実施されて来た。これらの保健行政施策は、米国で一足先に進められた Healthy People 2010 の計画基盤となったヘルスプロモーションの概念（WHO 1986）を取り入れていて、その特徴のひとつは、計画策定の段階からの地域住民の参加を活用している点にある(L. W. Green 1997）。現在、府や県、市町村の地方計画の作成と実施・評価が進んでいるところである（厚生統計協会 2010）。地方自治体は、保健施策のアウトカムとして罹患率や受療率等の健康指標の改善を目指している。目標到達のためには、住民レベルでの健康増進活動や予防実践活動を増やし継続させることが必要である。一足飛びにアウトカムの指標の改善は得られない。地域住民の健康への関心を高めていく地道な住民参画の活動の積み重ねが、地域全体の健康レベルを向上させていく。住民と協働した健康増進と予防が求められる時代だからこそ、住民参画の活動の質を担保するための評価と保証（アセスメント・アシュアランス）が必要と考える。

我々の先行研究では、地域住民による活動の企画や立案への参加が、活動参加者の満足度を高めることや（星野 2002）、活動の相互学習が保健行動を変容させ他者へ波及し、地域の健康問題を解決している過程を含むこと（星野 2001, 2003）を報告してきた。住民参画型の活動は、これまで地域看護学や社会学、社会心理学分野の研究者によって、住民の主体的活動の構造についての検討がされてきた。住民による地域組織活動のタイプ別活動分類(小山 1996)や、研究者による活動参加者の保健行動と心理的側面の変化(星野 2000,2001)の報告や、活動参加者の主体化指標の検討（藤波 2008）などがある。一方、住民がコミュニティをどう捉えるかについては、地域におけるメンバー通しのつながりといったコミュニティ感覚（J. Orfurd 1997）の検討がある。コミュニティ感覚と死亡率の関連(松岡 1992)、地域のつながりを持つこととコミュニティ感覚の関連についての報告がある（片桐、菅原 2010）。

わが国の住民参画活動は、戦中・戦後からの母子愛育班活動に始まり、近年ではボランティアグループや NPO、行政育成型の健康推進員など多様な型の活動が増加している。今後は、その活動の継続性と質が問われると考える。超高齢社会に住民と協働した健康増進と予防が求められる時代において、住民自ら地域活動を推進していくための活動の質を担保する評価と保証に関する方法の構築が必要である。

２．研究の目的

本研究の目的は、持続可能な住民活動を評価するための、住民参画による活動評価及び質を保証する方法を構築し検証することである。本研究で、住民参画による持続的な活動を評価し質を保証する方法の構築に取り組むことは、地域住民のさらなる活動展開を継続するために有用と考える。

３．研究の方法

(1)調査対象者と活動組織：

地縁型グループの A 住民福祉協議会（ミニケアサロン事業担当者Ｂ､会計担当Ｃ)、Ｄ自治会連合会（Ｅ会長）、Ｆ町ふれあいサロン（Ｇ担当者）

(2)調査方法と内容：

A,D,F の活動と運営や評価の実態および活動評価についての意見をヒアリングした。ヒアリング内容は、ＫＪ法を参考に構成要因を検討した。

４．研究成果

（１）活動の実際

・A 住民福祉協議会＜ミニケアサロン事業＞：運営資金は、母体である A 社会福祉協議会より 15000／月と、ふれあい広場のバザーより寄付 10 万円／年である。月 1 回の高齢者対象のミニケアサロンの運営費は、参加者より弁当代 500 円をもらうが、一人 340 円赤字がでるためバザーの寄付でやっとまかなわれている状況である。運営方針も含めた活動の評価検討の機会は、運営方針の検討（月１回の運営方針検討会、春日ボランティア研修会)、決算報告会（年度末)､計画発表会(年度初め)が充当する。これらの報告や計画には、前年度の活動における参加者の声、住民ボランティアの声を取り入れている。

・D 自治連合会：運営は、町内会費である。連合会独自の活動は、班の広報など回覧他、防災や体育会、餅つき大会、〇川子供祭り等を実施している。夏祭りは特別に住民に寄付を募ってその活動に充てる。運営方針も含めた活動の評価検討の機会は、行事ごとの反省会、毎月の役員会と総会（5

月）である。総会の報告には収支報告や委員会報告が含まれ、毎月の役員会では新たな活動について検討される。その際の評価は手順や段取りの不足点などが重視される。

・F 町ふれあいサロン：高齢者を対象とした月 1 回の運営は町内会費である。昼食代は参加者より徴収し、決算報告をする。運営内容と実施計画はG担当者を中心に実行委員（町内の健康推進員、日赤奉仕団員、自治会長、副会長、自治会評議委員 2 名など）との話し合いで決定する。4 月の年度初めに年貫計画を決め、行事内容は、随時ネタ探しをやり工夫している。町内の高齢者を対象としているため、独居高齢者を含む高齢者の自立生活に役立つような行事を検討している。

A,D,F グループとも、活動の評価は行事終了後に行われ、その評価は運営委員のディスカッションによる企画評価（場所や事業の遂行、）のみであった。参加人数はイベントを実施しながら数えにくいこともあり、正確にはカウントされていない。共通している点は、経費、行事を中心とした円滑な運営、参加者数である。

世話役である対象者は、参加者の増加やそのための工夫などを問題点として捉え、活動への負担感を持っていた。

先述したように、グループの作成する活動報告の内容は会計報告が主で変更の必要性は感じておらず、研究者からの提示した報告書の枠組みへの関心は薄い。

先行研究では地域住民活動の育成支援研修会（計画と評価の研修）において、住民活動の場として参画の土壌はあるものの、企画の根拠づけの無い計画立案が多く評価が曖昧なことを実感した（星野 2009）。その中では、「近所の高齢者の笑顔が多くみられる」などの住民独自の活動評価の視点がみられたが、今回と同様に数による評価指標は用いられていない。今後は、活動の評価の枠組みを住民による視点を交えて提示し、洗練させることが課題である。

日本全国の町内会や自治会ほか住民の活動は、コミュニティの人間関係の希薄化、地域活動への関心の低下、住民の高齢化などを背景に、多くのグループ組織が後継者不足問題を抱えている。持続可能な住民活動は、日本全国の町内会や自治会ほか住民活動の目指すところであり、住民自身がその活動を評価していくことは、住民参画による活動の質を保証し、その継続の一助になると考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
星野明子（HOSHINO,Akiko）
京都府立医科大学・医学部・教授
研究者番号：70282209

(2)研究分担者
臼井香苗　（USUI, Kanae）
京都府立医科大学・医学部・講師
研究者番号：50432315

村上佳恵子（MURAKAMI,Kaeko）
京都府立医科大学・医学部・助教
研究者番号：30584867

桂　敏樹　(KATSURA, Toshiki)
京都大学・医学研究科・教授
研究者番号： 00194796

松浦光和（MATSUURA,Mitsukazu)

宮城学院女子大学・学芸学部・教授
研究者番号：00149783

奥津文子（OKUTSU,Ayako）
滋賀県立大学・人間看護学部・教授
研究者番号：10314270

(3)連携研究者: なし